

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
テクニカル3(Gt)											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	早川治			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
<p>学生個々が持つ身体的特性（指の長さや身体の大きさ）等に留意しながら、グルーブセッション形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか？と感じながら受け留め理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識しながら受講する。授業中の演奏だけではなく、世界的プレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。</p>											
到達目標											
<p>グレード対応科目となっており、2年次はグレード11～15に準拠して授業が進行する。ハーモニックには1年次の基礎的なMajorダイアトニックコードから卒業し、テンションコード、ブルーススケール（ドリアン系・ミクソリディアン系・ペンタ系）、マイナーKeyでのアプローチ、をベースとし、リードシートを読み解きながら独自の演奏を行えるミュージシャンとしての応用力を技能として体得することを到達目標にしている。</p>											
授業方法											
<p>楽器を演奏するには肉体動作を物理的にコントロールできることが不可欠です。楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、合理的なプレイフォームを学びます。プロミュージシャンを想定し、アコースティックエレキトリック両方に対応できるギターのピッキング・フィンガリング・両手のコンビネーション、インプロヴィゼーションに対応できる自由度が高い奏法、バックイングのグルーブ感の増強、ブローケン・コード奏法を習得する。</p>											
成績評価方法											
<p>試験30%(試験と課題を総合的に評価する)、小テスト10%、提出物20%、成果発表（口頭・実技）30%(授業内容の理解度を確認するために実施する)、平常点10%(積極的な授業参加度、授業態度によって評価する)</p>											
履修上の注意											
<p>この授業では、キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>											
教科書教材											
毎回レジュメ・資料を配布する。CD、DVD等随時使用。											
回数	授業計画										
第1回	1年次のテクニックの復習 (1) グレード1～5の復習と、各項目が出来るようにする。										
第2回	1年次のテクニックの復習 (2) グレード6～10の復習と、各項目が出来るようにする。										
第3回	テンションを含むコードワーク (1) グレード11対応。テンションコードについて理解する。										

## テクニカル3(Gt)

第4回	テンションを含むコードワーク (2) グレード1 1 対応。テンションコードについて理解する。
第5回	テンションを含むコードワーク (3) グレード1 1 対応。ThroughTheFireを課題曲としてテンションコードについて理解する。
第6回	ブルージーな演奏 (1) グレード1 2 対応。マイナー&メジャーペンタを活用してブルージーに演奏出来るようにする。
第7回	ブルージーな演奏 (2) グレード1 2 対応。マイナー&メジャーペンタを活用してブルージーに演奏出来るようにする。
第8回	ノンダイアトニックコードの理解 (1) グレード1 3 対応。ノンダイアトニックをブルージーな表現で突破出来るようにする。
第9回	ノンダイアトニックコードの理解 (2) グレード1 3 対応。ノンダイアトニックをブルージーな表現で突破出来るようにする。
第10回	ノンダイアトニックコードの理解 (3) グレード1 3 対応。FeelLikeMakingLoveをブルージーな表現で突破出来るようにする。
第11回	マイナースケール (1) グレード1 4 対応。3種のマイナースケールについての理解。
第12回	マイナースケール (2) グレード1 4 対応。3種のマイナースケールについての理解。
第13回	マイナーII-V (1) グレード1 5 対応。マイナーキーのII-V-Iについてのフレージングが出来るようにする。
第14回	マイナーII-V (2) グレード1 5 対応。マイナーキーのII-V-Iについてのフレージングが出来るようにする。
第15回	全体のまとめ。

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
テクニカル3(Ba)											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	加茂・高橋			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
個々に合った正しい姿勢（楽器の構え方）を身につけ、左手のフォーム、右手のフィンガリング、両手のコンビネーションをストレスの無い（手に負担の掛からない）奏法を習得することを目的とする。様々なビート（8ビート、16ビート等）でグルーブ感を養う。コード進行を理解して演奏し、読譜力を身につけていく。指板上の運指を研究し、音に表情のある表現力を学ぶことを目的とする。											
到達目標											
本科目はグレード対応科目となっており、2年次後期はグレード11～15に準拠して授業が進行する。基礎的な運指での基礎トレーニング。メイジャースケール、メイジャー・マイナーペンタトニックスケールからさらに発展させ、世界の代表的なGrooveをマスターし、リードシートを読み解きながら演奏を行うことのできるミュージシャンとしての基礎力を技能として体得することを到達目標にしている。											
授業方法											
学生個々が持つ身体的特性（指の長さや身体の大きさ）等に留意しながら、グループレッスン形式で行うレジュメを使い運指を学び、読譜力を高めます。グレードに対応させながらJazztuneやLatinStyleなどのコード進行や様々なビートを学びます。グレードの内容に応じてオリジナルのマイナスイワタリCDやオリジナルの譜面を用いて授業を行います。											
成績評価方法											
試験30%、小テスト10%、実技50%、平常点10%											
履修上の注意											
この授業では、キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
配布プリント											
回数	授業計画										
第1回	グレード1～5の復習と、各項目が出来る。										
第2回	グレード6～10の復習と、各項目が出来る。										
第3回	グレード11対応。ShuffleGrooveを安定したリズムで演奏出来る。										

## テクニカル3(Ba)

第4回	グレード11対応。ShuffleGrooveを安定したリズムで演奏出来る。
第5回	グレード12対応。HalftimeshuffleGrooveを安定したリズムで演奏出来る。
第6回	グレード12対応。HalftimeshuffleGrooveを安定したリズムで演奏出来る。
第7回	グレード13対応。DiatonicChordscaleを理解出来る。
第8回	グレード13対応。DiatonicChordscaleを演奏できるようにする。
第9回	グレード14対応。3種のMinorscaleを理解する。
第10回	グレード14対応。3種のMinorscaleを演奏出来る。
第11回	グレード15対応。Lydian b 7thscaleを理解し演奏出来る。
第12回	グレード15対応。Wholetonescaleを理解し演奏出来る。
第13回	グレード15対応。CombinationofDiminishscaleを理解し演奏出来る。
第14回	グレード15対応。Alteredscaleを理解し演奏出来る。
第15回	全体のまとめ

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
テクニカル3(Dr)											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	田原歩			実務 経験	有	職種	ミュージシャン、インストラクター				
授業概要											
<p>本科目はグレード対応科目となっており、2年次前期はグレード11～15に準拠して授業が進行する。正しいセッティング、フォーム、スティックの持ち方から、基本的な4分音符、8分音符、3連符、16分音符の音価を正しく理解し、また「休符を感じる」感覚を育て、オルタネイトスティッキングを習得し無理なく演奏できるようになる。またアクセントを自在に操れることで立体感、躍動感のあるドラムが叩けるようになる。</p>											
到達目標											
<p>楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、ドラムを演奏する上で不可欠な合理的なプレイフォームを学ぶ。プロとして活動することを前提とし、様々な音符をスムーズに叩き分け、力みのない心地よいキレのある音色、ドラミングを目指し、またそれぞれのリズムの持つ特徴を理解して、その曲が求めているフィーリングを瞬時に見極めるスピードのある対応力を鍛え、人間味のある演奏力を身につけることを目標とする。</p>											
授業方法											
<p>学生個々が持つ身体的特性(手、指や身体の大きさ)等に留意しながら、グルーブレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか?と感じながら受け留め理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識しながら、受講する。授業中の演奏だけではなく、プロのプレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。</p>											
成績評価方法											
<p>試験20%(授業内容の理解度を確認する)、授業内発表30%(技能、及び表現力を評価する)、提出物20%(知識及び思考力・判断力を評価する)平常点30%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)</p>											
履修上の注意											
<p>キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>											
教科書教材											
教科書STICKCONTROL											
回数	授業計画										
第1回	1年次のおさらい										
第2回	ダブルストロークについての理解。(1)/グレード11対応。シングル、ダブルストロークのコンビネーションフレーズが叩くことが出来る。										
第3回	ダブルストロークについての理解。(2)/グレード11対応。ダブルストロークにアクセントをつけて叩くことが出来る。										

第4回	フラム系ルーディメンツについての理解(1)/グレード9対応。フラムアクセントを叩くことができる。
第5回	フラム系ルーディメンツについての理解(2)/グレード9対応。フラムタップ、スイスアーミートリプレット等のルーディメンツを叩くことができる。
第6回	6連符についての理解(1)/グレード13対応。6連符をオルタネイト、手足のコンビネーションで叩くことができる。
第7回	6連符についての理解(1)/グレード13対応。6ストロークロールを叩くことができる。
第8回	ルーディメンツについての理解。/グレード13対応。代表的なルーディメンツを叩くことができる。またつなげて演奏できる。
第9回	ダイナミクスについての理解。/グレード12対応。様々なフレーズを高、中、小の高度で叩き分け、コントロールできる。
第10回	シャッフルについての理解(1)/グレード14対応。ダウンアップ奏法を使ったシャッフルパターンが叩くことができる。
第11回	シャッフルについての理解(2)/グレード14対応。スネア、バスドラムでシャッフルフィルを叩くことができる。
第12回	ボサノバフィルについての理解。/グレード15対応。代表的ないくつかのボサノバパターンの特徴を理解し、叩くことができる。
第13回	4ビートについての理解(1)/グレード15対応。シンバルレガートの基本を理解し、基本的な4ビートが叩くことができる。
第14回	4ビートについての理解(1)/グレード15対応。シンバルレガート時における、バスドラム、ハットを使ったフィルが叩くことができる。
第15回	総まとめ

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
テクニカル3(Key)											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	加茂・堀越			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
1年次の授業を踏まえ、楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、合理的なプレイフォームを学ぶ。プロミュージシャン（ピアニスト、キーボーディスト）を想定し、クラシック式フレーズから左右の各指の独立が出来るようにする。また、鍵盤間の距離を完全に体感し、自分の体の一部のように演奏出来るイメージを作り上げる。二年次は更に難易度の高いテンションコード等の演奏も学び身につけることを目的とする。											
到達目標											
本科目はグレード対応科目となっており、2年次前期はグレード11～15に準拠して授業が進行する。AnyKeyのメジャー、マイナーダイアトニックコードを網羅し、自分が弾いている音階がきちんとイメージ出来るようにする。更にはsus4、dim、aug、テンションコードなど複雑なバックギンも苦手意識なく確実にマスターすることを到達目標とする。											
授業方法											
学生個々が持つ身体的特性（指の長さや身体の大きさ）等に留意しながら、グループレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか？と感じながら受け留め理解する。それを自分が演奏する場合ほどのような音が出せるかを意識しながら受講する。世界的プレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。											
成績評価方法											
試験30%、小テスト10%、実技50%、平常点10%											
履修上の注意											
この授業では、キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
配布プリント											
回数	授業計画										
第1回	グレード11対応。指定されたコードを移調できることを目的とする。										
第2回	グレード11対応。指定された曲を自分のキーに合わせて移調し、簡単な弾き語りが出る。										
第3回	前回の内容に加え、半音上げ下げして黒鍵多めのキーが弾くことが出来る。										

## テクニカル3(Key)

第4回	グレード12対応。sus4、dim、augが弾くことができる。
第5回	グレード12対応。Add9、Maj7、9thが弾くことができる。
第6回	グレード13対応。まずはCキーのテンションコードを理解し、弾くことができる。
第7回	グレード13対応。Cキー以外のテンションコードが弾くことができる。
第8回	指定したテンションコードを含むコード進行が弾くことができる。
第9回	難易度が高いので前回に続きテンションコードに慣れる。コードを見てすぐ弾くことができる。
第10回	グレード14対応。BPM120に設定し、任意のコード進行のコードチェンジがスムーズに出来る。
第11回	前回の内容に加え、今までやったテンションコードを含む複雑なコード進行をBPM120でキープできる
第12回	グレード15対応。左右のリズムをバラバラにしたバックキングが出来る。
第13回	キーボードバックキングまる覚えに載っている様々なジャンルのバックキングを弾くことができる。
第14回	今までの内容を踏襲した課題を出し、それに対応して自分なりのバックキングを弾くことができる。
第15回	全体のまとめ